

訪問リハビリ通信

第4号

～Rehastagram～

こんにちは。作業療法士の戸高です。私はサービス業において他者と関わる中で大切なことはコミュニケーションだと思っています。

今回は「**利用者様との関わり方について、私の熱い想い**」を書きたいと思います。

よくあるケース

- ・身体は治したいが、自主トレーニングは面倒で行っていない
- ・どう頑張ってもやればいいのかわからない

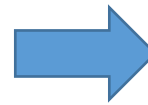
このようなケースの方は決して珍しくはないと思います。このような方に対して、「自主トレーニングをやったほうが良くなります」「リハビリを頑張ってください」等の声かけをしていませんか？
 実際にこのケースの方もそのように促されたそうです。一見とてもいい声かけに思いますが…

① 勉強しない子供 ⇒ 「勉強しなさい」と声かけ

継続困難

② 痩せたい人 ⇒ 今より痩せたいなあ…

③ 利用者様 ⇒ 「自主トレーニングをしてください」
 「頑張ってください！」



① ⇒ 生活や遊びの中で勉強の必要性を学ぶ

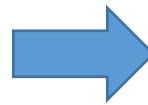
継続可能

② ⇒ 夏までに水着が着られるようになりたい！
 食事は糖質制限して…一日5キロは歩こう！

③ ⇒ 利用者様:「〇〇がやりたい」

リハビリ:「このトレーニングをこのくらいやるのがいいですよ」

※リハビリ内容・期間の提示、実施後の成果の振り返り確認



私は、利用者様は家族同然に考えています。そのため関わる上で、仕事だから「関わる」「促す」のではなく、利用者様の状態がより改善出来るよう関わる事が大切だと思います。また、利用者様自身にリハビリの必要性「目標」を納得していただけるよう声かけを行い、明確な目標を設定し、経過を共に追っていくことで「共感」することも大切なことだと思います。